

はるか彼方の雲の下は、喧噪に包まれた現実の世界か？ IC-7000からは、椰子の木に張ったアンテナから放たれたKH2の音が聞こえてくる。水平線の彼方からの声で夢がよみがえる。来年はIC-7000を友にKH6へ行こう



れぬようにヘッドホンを被り、マンピュレータに向き合う。キャンプ場の静けさを破らぬよう、静かにDXと向き合うというもおつだ。

DXが一段落したら、いつものV・UHFでローカルとのスケジュールQSO。下界の夜景を眺めながらの高い場所からなら、100km程度離れたホーム・シャックのローカル局といつもと変わらぬQSOができる。ローカル局達の羨望の声を聞きながら、シェラフに潜り込んで眠りに落ちる。

翌朝、太陽が顔を出す前に起き出し160mバンドでQRV。わが家ではとても張れない80m長のワイヤーで捕まえた信号を聞きながら、日の出が空を赤く染めるのを楽しむ。

そろそろローバンドのコンディションも落ちてくると朝食だ。家族と共にクロワッサンとコーヒーと、地元の新鮮野菜のサラダというのはどうだろう。ゆったりした時間の流れと、すばらしい環境は日頃のストレスを発散できること請け合いです。

モバイル・シャックで ベスト・ロケーション

休みが短いときは、モバイルが半固定シャックに早変わり。ロケーションの良い場所までドライブし、駐車スペースを見つければ、タイヤ・ベースで固定したアルミニウムのポールにアンテナを固定し、簡易シャックのでき上がり。AH-4にワイヤーというのもオールバンドでQRVするには便利である。

IC-7000 field use

ロケーションがいかに良くても、よく飛ぶアンテナを建てたいまして、移動は50Wだ。そのパワーを十分活用するためのアンテナを支えるマストは重要だ。車を重しにできるタイヤ・ベースはアウトドア派の強い味方なのだ



別にタイヤ・ベースである必要はないが、少し重いビーム・アンテナなどを上げるのなら、このほうが安全だし簡単だ。

移動先も特に遠い場所の必要はなく、近くの大いなる河川敷や海岸、小高い丘で十分に楽しめる。

じゃまにならない場所にアンテナを立て終わったら、早速QRVしてみよう。周りにはある程度人が居ても、シャックは車内なのでマイクに向かってALCが振れない程度の声なら、周りには迷惑は掛けない。

JCC/JCG派なら移動先さえ間違わなければ、きっとパイルになるだろう。コンテスト派ならがんばれば上位に食い込めるかもしれない。

安心して運用するためには、電源にサブ・バッテリーを持って行こう。運用に夢中になって、気が付いたらバッテリー・エンコと言うのではしゃれにもならない。ただし、電解液をこぼさぬように！ 家に帰ったら着ていた服がボロボロでオクさんから大目玉必至だ。十分お気をつけあれ。

発電機も有用だが、最近静かになったとはいえ周囲への騒音の気遣いと、燃料の安全性には十分な注意が必要だ。

家を出るときにポットに入れた飲み物と、コンビニの弁当で丸一日アマチュア無線三昧を満喫できる。

車は燃料切れとバッテリーあがりにさえ気をつければ、環境抜群なシャックだ。ただ、あまり散らかして家族は誰も乗ってくれないということのないように！